

第1回「授業における障がい学生支援に関する研究会」の開催

The First Workshop on How to Support Students with Disabilities in Class

人文学部 新國 三千代

札幌学院大学「研究促進奨励金」(共同研究)プロジェクト(「本学バリアフリー委員会の8年間の実践にみる障がい学生支援の成果と課題」)

本学では、バリアフリー委員会の学生達が聴覚障がい学生のノートテイクやパソコンテイクなどの情報保障で活躍していますが、授業における一番の支援担当者は教員です。つまり、授業を計画し、工夫を凝らしてわかり易い授業を行う担い手は教員です。しかしながら、実際の教育現場においては様々な問題を抱えながら、悩んだり、試行錯誤していることも多いと思います。そこで、このような経験を持ち寄り、工夫していることや問題を語り合うことで、よりよい解決方法を見出していくために、札幌学院大学FDセンターと共催で「授業における障がい学生支援に関する研究会」を開催しました。

まず、本学で聴覚障がい学生が履修する英語の授業を担当された非常勤講師の大池京子氏から、語学の授業における実践事例についての研究報告をいただきました。大池京子氏は大変熱心に授業に取り組み、自らの実践を詳細に分析しながら、非常に参考になる報告をされました。また、それを巡って大変活発な議論がありました。次に、皆川雅章氏から障がい学生支援をテーマとするシンポジウムやフォーラムに参加して得た知見に基づく報告があり、「障がい」という概念を別の観点から改めて問い直す機会になりました。

大池京子氏の研究報告につきましては、当日発表いただいた授業実践の報告をもとに、その後の研究成果等も踏まえて、「聴覚障がい学生在籍クラスでの語学授業実践報告」というタイトルで執筆していただきました。

「授業における障がい学生支援に関する研究会」

日時：2010年3月17日(水) 14:00~16:00

会場：C館4階会議室

プログラム：

14時~15時30分 大池京子氏(本学非常勤)

「聴覚障がい学生在籍クラスでの語学授業実践事例報告——工夫と課題」

15時30分~16時 皆川雅章氏(社会情報学部)

「障がいって何だろう？」(シンポジウム・フォーラム参加報告)

主催：札幌学院大学「研究促進奨励金」(共同研究)プロジェクト「本学バリアフリー委員会の8年間の実践にみる障がい学生支援の成果と課題」(代表：新國三千代)

共催：札幌学院大学FDセンター